

鉄道会 協力

西日本鉄道とJA全農がつくった新会社が運営するモデル農園で生産される高級ブランドイチゴ「あまおう」(福岡県大木町)



つくる伝統

<52>

「ピンク色のお湯にしたい」「香りはユズがえいね。爽やか」。高知市内の体育館で、机を囲んだ親子がにぎやかに相談をしていた。机の上には着色料や香料がずらり。重曹と調合し、オリジナル入浴剤を作る教室だ。

松田医薬品

(高知市)

入浴剤

先生役は松田医薬品(高知市塚ノ原)の社員。同社は、こうした活動を「浴育」と名付け、県内外で教室を開いている。松田康弘社長(58)は「近年はシャワーで済ませる人も多い。ぬるめのお湯にゆったり漬かる心地

入浴剤の開発は30年余り前。「ゆず湯や温泉などの風呂文化と、高知特産のユズやシヨウガを組み合わせて、体の不調を改善できないか」。そんなアイデアが出発点だった。

近大マグロで「グミ」

近畿大(大阪府東大阪市)と製菓大手のUHA味覚糖(大阪市)は22日、近畿大水産研究所が完全養殖した「近大マグロ」から抽出

味覚糖と開発

ロー匹から約100g抽出され、市販品の約2倍の保水効果があるという。食べて取り入れる「グミサプリ」と、唇を優しくすって角質を落とすペースト状の化粧品「リップスクラブ」にそれぞれ配合し、1080円。ココカラファインが



松田医薬品の入浴剤。38～40度のお湯でゆっくり漬かることを勧めている

1981年にシヨウガやヨモギを紙パックに入れた「マツダ浴精」を発売。室戸海洋深層水、ユズ、ブタンなど県産品を使った入浴剤も開発してきた。近年は、無香料、無着色の「うるおい家族」などさらに商品の幅を広げ、OEM(相手

松田医薬品 1947年創業。従業員約100人。畜産動物や養殖魚用の医薬品卸販売が主な事業。四国4県のほか九州にも営業所を置く。入浴剤は同社のオンラインショップで購入できる。

展開するドラッグストアで販売する。近畿大とUHA味覚糖は、今後近大マグロを使った美容関連商品の開発を検討中。近畿大は、エースコック(大阪府吹田市)とも2014年から近大マグロの中骨を

生薬研究の蓄積があるとはいえ、入浴剤は未知の分野。シヨウガやヨモギの有効成分を抽出する

「一度、1ミリの試行錯誤。もちろん使い心地も確かめる。会社で、家で、1日何回、風呂に入ったでしょうね」。入浴剤の担当理事、岡崎雄二さん(62)が当時を振り返る。

「お風呂は体にも、心にも効きますから」と松田社長。入浴剤とともに、高知からお風呂文化を発信している。

お風呂文化を発信

先ブランドによる生産を加えると100種類を超える。入浴剤部門の伸びが寄与し、同社の売上高は2010年3月期の約58億円から14年3月期には約82億円へと伸びた。

「西鉄はあまおうを使ったスパークリングワインなど商品企画のノウハウがある。収穫した産品は自社の流通網を通じてスーパーやレ

は「いくら作っても売れなければ成り立たない。今回は西鉄により販路が確保されており、地域活性化の起爆剤になるだろう」と話した。

年同月比2・3%増となり、昨年10月以来、3カ月ぶりにプラスに転じたと発表した。気温が下がったことで、冬物衣料品の売れ行きが伸びた。

の売上高(同)も1・0%増と10カ月連続で前年同月を上回り、堅調を維持した。スーパーでは、総菜の売り上げが伸びたことから、食料品が3・

8%増だった。衣料品では昨年12月まで暖冬で伸び悩んでいたコートや手袋などの売れ行きが好調で、2・3%増

四国4新聞社共同企画